研究部だより

令和6年7月 25 日発行
第1号
担当：池田

夏休みまであとわずか、一学期の間も各学部では様々な学習が展開されていたかと思います。今年度の研究部では「研究部だより」を８回発行する予定です。各学部の授業実践や研修会の報告等をお伝えしていく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。今月は小学部中ブロックと高等部３学年の取り組みと小学部の雁田先生の研修報告を紹介します。

ICT を活用した授業実践①

高等部３学年　生活単元学習　単元名「私たちと社会①」題材名「校外学習」

授業者　梅沢先生・馬渕先生

対象生徒の様子

・地域の商業施設や交通機関を利用する学習の中で、余暇体験と昼食場所を生徒に GoogleForms のアンケートで選択させる学習を行っていました。

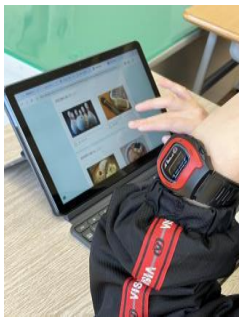
・これまでの学習で、自分のタブレット端末から classroom に進み、情報を確認することに慣れているので、GoogleForms を使ったアンケートの選択も教師が言葉掛けをしなくても一人で取り組むことができている。一人で取り組むことが難しい生徒については、近くに座っている友達が GoogleForms まで画面を開くサポートをしていた。

ICT 活用の意図

・GoogleForms では、選択肢に対応する写真と文字を載せ、どの生徒も選択しやすい形式のため。

ICT 活用の成果

・GoogleForms のアンケートを利用することで、文字を書くことが難しい生徒もタップすることで入力が可能になる。また、アンケートの集約も自動で瞬時にでき、すぐに確認しやすい。
GoogleForms では、選択肢に対応する写真と文字を載せ、どの生徒も選択しやすい形式にしていました。



ICT を活用した授業実践②

小学部中学年ブロック　音楽　単元名「音楽を作ろう（ガレージバンドを使ってみよう）」

授業者　林・小学部中学年教員

対象生徒の様子

・小学部３・４年生の学習集団。4 年生は昨年度の音楽で、タブレット端末（アプリ・Garageband）を使用して自由に音楽を作る学習に取り組んでいる。

・３・４年生ともにタブレット端末を使うことに対しての興味、意欲は高く、触りたい、使ってみたいという気持ちはあるが、使う機能は YouTube や学習アプリ、カメラ機能など限られており、どう操作したら良いか、どんなことができるのかについてはまだあまり知識がない段階。

ICT 活用の意図

・音を表現したい思いがある児童はもちろん、リズムにあわせて楽器を鳴らすなどの活動がまだ難しい児童についても、音を選ぶ、つなげる、既存のリズム機能を利用するなどして表現することができる。タブレット端末（アプリ・Garageband）を使うことで、幅広い実態の児童が、「音楽作り」の活動に主体的に取り組むことができると考えたため。

ICT 活用の成果

・ベースの音楽に合わせて、自分でリズムを作り出したり、既存のリズム機能を利用して表現したりする様子が見られた。同じ曲を題材にしながらも、自分なりの音選びで、音楽作りに取り組む姿が見られた。

・アプリの機能が多岐に渡るため、まだ使いこなしている児童は少なく、教師の支援を受けながら活動する場面が多いが、音を鳴らしたり、楽器を選んだり、リズムを作ったりすることに主体的に取り組む姿が見られた。

・余暇時間に、興味をもって Garageband で音を鳴らしたり、音楽作りをしたりして楽しむ様子が見られた。

研修報告

報告者　小学部　雁田泰成

社会福祉法人侑愛会主催のもと６月 21 日から７回にわたって行われる「自閉症講座 WEB 基礎コース」を受講中です。今回は第１回と第２回の内容について報告します。研修資料は雁田が持っています。今回載せきれなかった詳しい内容もまとめられているので興味ある方はお声かけください。

第１回「自閉スペクトラム症の特性理解とアセスメント」　６月 21 日

学びのポイント

１　特性と特徴を理解する

自閉症について知識として違いを知ることはできても非自閉症者はそれを体感できない場合が多い。

→うまくやれない理由が分かりにくいため、ヘルプの申し出が支援者に受け入れてもらいにくい。

《特性（脳の違い）》		《特徴（違いの現れ方）》
見えない特性 （頭の中で起こっていること）	→	見える特性 （具体的な行動や言動）
なんらかの特性	→	普段と異なる道を通るとパニックになる
なんらかの特性	→	街で出会った母の友人に太りましたねと言ってしまう

ＡＳＤの特性（ＡＳＤの学習スタイル）

- □　暗黙的学習の違い
- □　聴覚情報処理の違い
- □　注意・注目の違い
- □　実行機能の違い
- □　社会的認知の違い
  - A.共同注意
  - B.心の理論
- □　感覚情報・刺激処理の違い

機種が違う
スマホのようなもの

三大特徴

①　社会性の（質的）障がい
②　コミュニケーションの（質的）障がい
③　想像力の障がい

治せないし、治すべきものでもない
理解し尊重し活かすもの
→機種変更はできない

２　アセスメントの重要性（根拠のある一貫した指導支援をするために）

- 評価がずれると　支援もずれる
- 高すぎる目標を設定してしまうリスク
- 余計な手出しをしてしまうリスク
- 様々な不適応行動の原因を本人のせいにしてしまうリスク

分かってるんです　分かっていると思います　は危険
分かってるのにやってしまう　本人が悪いになってしまう
そこから先に進まなくなる

第２回「構造化された支援の例」　７月５日

学びのポイント

１　合理的配慮と構造化

合理的配慮には苦手なところ出来ないところを助ける、配慮するという側面もあるが、本来もっとポジティブなもの

→構造化があることで適切な学びを促進させることができる。

２　構造化とは

〇自閉症者は漠然とした環境から適切に情報（意味）を受け取ることに困難がある

・　抽象的概念の理解が苦手なので

→具体的に示す

・　目に見えない意味の理解が苦手なので

→視覚的に示す

・　情報の整理が苦手なので

→重要な情報は視覚的に注目しやすくする

→余計な情報は見えなくする

→情報の量を調整する

そのためのアイデア⇒構造化

３　構造化が提供するもの

□　言われて行うのではなく 分かって行う をサポート

□　目的を持って 見通しを持って活動する をサポート

□　達成感 自尊心の向上 をプロデュース

□　障がいとしての苦手さを 長所として発揮できるようにする

自閉症らしく生きていくための工夫

それこそが 違いを尊重する ということ

４　構造化の種類

①　スケジュール

②　アクティビティシステム(ワークシステム)

③　物理的構造化（物理的整理統合）

④　マテリアルの構造化(視覚的構造化)

とルーティン

逆に言えば これらが整っていないと

彼らは生活しにくいと言える